

今大会を顧みて

日本教職員バドミントン連盟
副会長 稲石 一雄

今回は38年ぶりの東京開催ということで、関係者は大いに力を入れて準備をしました。折角スカイツリーがあるのだから、そこを中心に皆さんをお迎えしようということになり、墨田区総合体育館を全日程、押さえました。ところがここで困ったことが発生しました。墨田区総合体育館がインターハイのバレーボール会場になるということで、前半の会場を変更せざるを得なくなりました。そこで急遽、会場探しが始まりました。葛飾区、江東区、台東区をお願いし、なんとか必要面数は確保しました。しかし、前日が押さえられず当日の朝に会場設営をしたり、午後6時までしか押さえられずにタイムテーブルの調整が厳しかったり、運営にはずいぶん苦心したようです。また、会場が増えたために役員数、審判員数、会場費が増えていきました。費用面や人員確保でも苦労したようです。ただ、補助生徒についての人数把握や当日の動きについては、高体連にすべてお任せしました。審判の現場での動きは都協会にお願いしました。どちらも経験豊富で安心してお任せできるので、その点の負担はずいぶんと軽減されました。



団体戦は一般男女が青森県と香川県とともに初優勝です。(どちらも成壮年では実績がありますが。)男女とも決勝戦はダブルスがファイナルで取り、第2シングルスで勝負がつくという展開でした。一般男子シングルの決勝は、昨年、準決勝で戦った相手で、今年吉村選手が勝ちました。30歳男子ダブルスの時は、スタンドから小さい子供の声援が響いていました。そして試合後、親子でハイタッチしていました。私も若い頃は子供を連れていたので、昔を思い出しました。(私は子供の前で勝ったことがないのですが。)教職員大会の良さは、こういうところだと思います。普段は仕事や練習で家族サービスがなかなかできないでしょうけれど、こういうときに家族旅行を兼ねて大会に参加するのも良いことだと思います。



残念なことは、参加資格について不明朗な選手の噂が絶えないことです。一時期、参加者が減少したため参加資格を広げました。ところが拡大解釈、あるいは自分たちに都合の良いように解釈を曲げている人たちがいるようです。全日本総合大会の出場権がかかっているの、そこを狙っているのでしょう。総会でも話がでましたので、公正な判断基準を作りたいものです。

今回は私も東京都教職員連盟に所属している身ですから、色々と不備な点が見えてしまうのですが、大会を準備、運営するのは大変なことです。出場者の中には運営側の経験が少ない人もいないのではないかと推察します。都道府県協会や高体連等の役員になれば経験も多く積めるのですが、そういう人ばかりではないでしょう。自分の県が開催地になった時には、会員の皆さんは積極的に運営に参画してください。そして、大変さを実感して、次に他県に行ったときは色々な面で開催地に協力をしてください。(例えば、登録、申し込み、集合時間、研修会・総会・開会式やレセプションの出席など)

最後になりましたが、第53回の開催にあたり、ご尽力いただいた関係各位に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。